

HIO YOG 教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

1990. 12. 41号



車座での話し合いを発表する白井推進員

「名ばかりの門徒は家に」

推進員研修で加藤先生から厳しい指摘

兵庫教区門徒推進員連絡協議会の研修会が十一月二十二日に阪神北組源照寺(河原弘雄住職)を会場として開催された。今回の研修会は「推進員としての聞法と伝道」を中

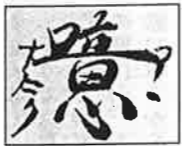
し、基調講義では加藤先生の出身された奈良のお寺から大阪府四條畷市において開教寺院として現在ある自然寺となるまでの苦勞など、推進員にとつても伝道を進める上で必ず超えねばならない壁でもあるようであった。そのお話のなかで、推進員がまず教えを伝えていかなければいけないのは真宗とはまったく縁のない人や他宗の人ではなく「名ばかりの門徒」といわれるこの真宗教団の門徒であります。と指摘。

また、「名ばかりの門徒は外でなく家にいるのです」との先生の言葉に、思わず

それぞれの奥さんやご主人を思い浮かべたのでは。僧侶にとつても考えさせられるところ……。

午後は昼食の後、車座になり活発な話し合いがなされ、全体討議の締めくくりとして加藤先生は次のように助言された。

各寺において門徒推進員として伝道活動をするのが、すでに総代会や仏婦、仏女などお寺における役割や位置づけがきまっております。推進員としての活動がしにくい、との意見もあつたようですが、そのような意見が出ることは自分自身がおかしいように思います。もう一度再確認をいただきたいのですが、門徒推進員は組織でも役職でもなく教団の基幹運動を推進していただくご門徒の核として、仏女の会員であれば仏女として、仏婦の役員であればその仏婦活動をとおして、また総代となればその役割の中で基幹運動を推進していただくのが、門徒推進員であります。ご門徒の中から宗門の基幹運動に取り組む強力な推進者の養成を目的とした中央教修を大谷本願で受講させていただきます。



蓮如上人の御文章を通読していると、上人の考え、生き方の年令による変化が伝わってきて、人となり、味わえたという話を、組の先輩から聞いてはつとした。

◆立体映画も進歩して普通の眼鏡と変わらぬもので立体感が得られるようになった。科学技術の進歩は人間生活を一変したけれど、分析研究という手法を用いる限り、右の眼にも左の眼にもない距離感という能力を発見することは容易ではなかつた。◆本年二月豊原先生から、弥陀仏の働きの一つひとつが、諸仏如来として語られていることを教えて頂き、目の前の鱗が落ちる思いがした。◆八月末に本典総序の「難信金剛の信樂はうたがいのそき徳をえしむる真理なり」の徳は證のことはないかと質問したら、梯先生から懇切丁寧な回答を頂いた。住職歴四十余年何も知らなかつた、今更のごとく思い知らされた。橋慢に陥つて一部分の知識を振りかざし、知っていると恥ずかしく思うばかりである。(朝倉智亮)

教区だより

12・1月

12月8日(土)～9日(日)	中部・近畿仏連連絡協議会	京都	18日(火)	近畿寺婦研修会	奈良
10日(月)～11日(火)	大阪矯正管区一泊研修会	大阪	19日(水)	基推委企画推進室会議	4時
11日(火)	京阪神戸都市圏都市開教本部会議	大阪	22日(土)	組長ブロック長会議	10時半
12日(水)	青僧会研修会	4時	22日(土)～23日(日)	スカウト仏教章研修会	別院
13日(木)～14日(金)	第三連区推進専従員研修会	奈良	25日(火)	結集大会常任委員会	10時半
14日(金)	教区寺婦連盟委員総会	2時	組長会	1時半	
14日(金)～16日(日)	別院常例 小滝信生師(備後教区)	1時半	結集大会実行委員会	3時	
16日(日)	教区仏教青年「ヤングひろば」		28日(金)	教務所御用納め	
17日(月)	布教団副団長会議	10時半	1月1日(元旦)	神戸別院元旦会	7時
	布教団役員会	1時	8日(火)	教務所御用始め	
	杜推協総会	10時半	14日(月)～16日(水)	別院常例 光森宣明師(北摂組正覚寺)	1時半
			20日(日)	別院仏婦報恩講	1時半

泊り込みでお接待

HIO目録

11月9日別院仏婦常例。講師は鷲尾衛鳳師(神戸西組宝珠寺)師は十一月七日に開催された結集大会の事務局として頑張っていた、その大会の願いなどもご話の中ではないが、お話を聞いて、午前中は報恩講をまゐりにして仏具のおみやげも婦人会でしました。◆10日神姫組寺族婦人同朋講座を泰法寺で開催。教区派遣講師は藤栄行信師(神戸真宗連盟主催の第四回真宗講演会が別院を会場に開催。講師は野々村智劍師(奈良)講演の前には露の団六さんの落語もありました。連盟には大谷派なども含め百四十九か寺が加盟し理事長は本派の藤宏隆師(神戸湊組頭証寺)◆11日仏青委員会十二月十六日のヤング広場の内容などについて協議◆12日第三回ビハラ研修会実施協議会。参加者はビハラ推進部会員と協賛の杜推協・仏婦・寺婦の各代表者。研修会は二月十三日日程は午後一時開会式、問題提起は宮里哲秀師(神



婦人会手づくりのお斎

◆18日江並教堂報恩講。講師は小滝主管でした◆20日岡山県の国立ハンセン病患者療養施設で日生群島にある長島愛生園と光明園の報恩講に教務所長も出席◆青年僧侶の会役員会。街

生前のご苦勞を偲び 謹んで敬弔の意を表します。(敬称略)

神戸湊組高松寺前坊守	谷川	タケ	11月10日	93才
「慈弘院釋貞誠」	日下	珠成	11月18日	85才
神戸湊組浄徳寺住職	神光	祐正	11月20日	67才
「無蓋院釋珠成」	小松	俊照	11月21日	56才
神姫組正善寺住職	光森	威大	11月23日	77才
「真光院釋祐正」	菊川	秀映	11月23日	76才
加古川組福正寺住職	大塩	誓一	11月23日	83才
「大願院釋俊照」				
神明組安養寺前任住職				
「光壽院釋威大」				
神戸東組浄称寺前任住職				
「浄覚院釋秀映」				
姫路西組妙善寺衆徒				
「浄光院釋誓一」				

頭伝道や研修会などについて◆22日門徒推進員研修会(別記)◆23日加古川組福正寺住職故小松俊照師の葬儀に本山よりの達書伝達に教務所長参列◆24日阪神北組住職寺族同朋講座を浄福寺。講師は藤栄行信師◆26日神明組安養寺前任住職故光森威大の葬儀に本山よりの達書伝達に教務所長参列◆阪神南組同朋講座を西要寺。講師は高崎長英師◆別院報恩講準備。婦人会もお斎の下ごしらえやお皿の準備など、前日から三日間泊り込みでお接待をしていただきました◆27日◆29日別院報恩講(別記)◆30日結集大会常任委員

会。大会の決算現況など◆12月1日第一土曜仏教講座(別記)◆2日3日豊岡教堂報恩講。講師は藤山達郎師(神崎組乗徳寺)◆3日阪神東組同朋講座を最光寺。講師は和田智浄師◆4日5日中央推進委員会第二定期総会を本山宗務総合庁舎二階研修室で開催。教区基推委を代表して山崎一朗副会長(出石組正福寺)が出席、次年度の宗派基幹運動計画案について協議◆5日教区門徒総代評議員会。ブロック別研修会の反省、来年二月二十一日からのホテルブルー城崎で開催の一泊研修会のことなど。

「治定せしめたもう」

仏教講座で大村英昭師

十二月の第一土曜日、大阪大学で大阪教区大村英昭師の「死ねない時代」と題した講演をいただきました。

大村先生は講題と同名の著書「死ねない時代」(いま、なぜ宗教か)を今年の十月三十日発行(発行所・有斐閣)しておられ、本に書けなかったことや、その内容を中心に講演下さいました。

本には先生のプロフィールが次のように紹介されています。

【社会学の教授であり、浄土真宗の「お坊さん」でもあるという二足のワラジの履き方がハンパでないことは、本書の頭注のシャープな解説と、おじいちゃん、おばあちゃんもうなづけるようなやわらかな語り口の本文によく現われている。「明晰な論理、パラダイム崩し、思いがけない例示、率直な感情吐露」をダンディにさわやかに展開するこ

とで定評があるが、本書もその例外ではない。門徒衆への語りで鍛えられた流暢な講義は、若もの心を魅了してやまない。」

あおる文化

社会学には死をみつめるというものはほとんど無いのです。死がタブーでむしろ目をそらしてきたのです。真剣に見つめようとする、考えようとする。ぼくらは必ず死ぬのにね。その必ずまわっている世界を見つめようとしていままに、ただ未来のはっきりとしない栄光に向けて人々を煽ってきたんです。マルクス主義が東欧で問題になっていますが、ソ連と東欧がそれをもとにやっ

しずめる文化

それに対して鎮めの文化の台頭であります。その鎮めの文化は人間が死ぬという事実、その事実を徹底的にみつめることで成り立つ文化だと私は考え

ています。じゃあ、何処へ死んでいくのかというと、けつして霊界へいくわけではありませぬ。

私の好きな言葉で蓮如上人は「往生は治定せしめたもう」とあります。ご存知の歎異抄第九章に親鸞聖人は「ちからなくしておはるときに、かの土へはまあるべきなり」と、この世で、あの世を特に望まない。早くお浄土へいきたいという気が起こらない、私はこの娑婆世界にとても執着が強い、そのような煩惱に満ち溢れた人間だ。しかし、そういう我々に対してこそ、大慈大願まことに頼もしく

ただ、始めから望んで、浄土にいきたくない、いきたくない、いきたくないではない。私はたぶん言わないでありましよう。あの第九章、とても意味深いですね。また、唯円が親鸞聖人に



講演する大村師

向かってですね「お浄土がええとこや、ええとこやと書いてあるので、ほんまやったら余程喜ばなあかん。お念仏させてもらえるだけで浄土へいかしてもらえるのやったら喜ばなあかんはずやけど、全然嬉しくないんです」と告白されたら。親鸞聖人は「私も同じ心だ」と言われ、けつしてそれを「それはお前の信心が足らんからや」とはおっしゃってないのです。そして私も「ちからなくしておはるときに、かの土へはまあるべきなり」と、かの土へいきたくないと思う心が起こらないか、我々はそうやってまだ見ぬ安養の浄土を恋しからず、苦悩であつてもこの郷里が捨てがたいのや、いわばそういうことじたいが煩惱の証である。その煩惱の恒常をなんとか救わねばならないとお立ちくださいるのが、不可思議の誓いで

収まってい

そういう世界の開け、その世界を蓮如上人が「聖人一流の御勸化のおもむきは」と言われる時は、お念仏のお陰で私たちの往生が「治定せしめたもう」と書かれ「おさめさだまる」という字の運びが、とてもよい私は思います。なんとなく、鎮まっ、おさまっっていくんです。私たちは無理に、鎮めていこうというのではなく、無理やり鎮めていこうというのとは自力聖道門であるとも言えましよう。そうではなくて、なんとなく鎮まっ、世界の開けが、お念仏のお陰で感じ取るからだとも思いますが。(文責記者)

団参迎え別院報恩講

二十二組から四十三か寺出勤

例年の通り十一月二十七日から二十九日の三日間、神戸別院報恩講が厳修されました。

今年も遠近各地より毎座たくさんのご参詣や団参をいただき、また教区内の皆様より協賛いただき報恩講法要もお陰をもちまして盛儀のうち修りさせていただきましたこと厚く御礼申し上げます。

前日からお斎の準備とお掃除は婦人会が、荘厳やお供えの準備は職員総出でかかりました。そのお供えの中で、なくてはならないお餅は播磨東組西入寺(木南昭隆住職)のご門徒の方々がご奉仕くださった小餅数百個を、職員が段盛と高杯に盛りお供えしました。また、法要の間には遠い

ところから六十キロもの仏飯米やみかんなど、抱えきれないほどのお供えを顔を真っ赤にしてお持ちいただいたご門徒もあり、報恩講によせる熱い思いをありがたく感じました。尚、次の方々がご出勤下さいました。(敬称略)

- ◆阪神東組浄円寺藤園良幸
- ◆阪神北組勝福寺後藤善成
- ◆光円寺杉本光俊
- ◆神戸東



出勤前のご法中の方々(控え室)

- 組照善寺杉本正義
- ◆真照寺仲邑秀明
- ◆西教寺三輪一了
- ◆正寿寺棟信了
- ◆誠照寺末永常信
- ◆安楽寺山内義憲
- ◆円福寺松本広長
- ◆神戸中組正念寺増岡康信
- ◆神戸漆組尊光寺前川隆司
- ◆光明寺田中法胤
- ◆顕證寺藤正隆
- ◆神戸西組長善寺平松周章
- ◆光瑞寺高坂省爾
- ◆本誓寺藤猪英生
- ◆順照寺善本秀樹
- ◆徳善寺岡崎満利雄
- ◆北摂組明樂寺朝倉智亮
- ◆正覚寺光森宣明
- ◆正光寺高崎長英
- ◆宝泉寺平原充信
- ◆神明組光明寺松本重信
- ◆金覚寺大岡周賢
- ◆勝明寺小山貫修
- ◆西明寺赤松尚之
- ◆善福寺藤本唯成
- ◆淡路組円徳寺巖見照
- ◆萬行寺山本宣昭
- ◆山本龍雄
- ◆播磨東組妙覚寺森田智
- ◆播磨中組光福寺藤野昌俊
- ◆加古川組南宗寺月崎昭見
- ◆神崎組教徳寺山本達誓
- ◆姫路南組常念寺藤井弘範
- ◆姫路中組正龍寺関裕
- ◆綱干組政源寺赤松義光
- ◆揖電東組西樂寺桑門利行
- ◆揖電西組専龍寺辻清昭
- ◆佐用組常徳寺杵築俊昭
- ◆多紀組光専寺浅井幸憲
- ◆氷上東組照蓮寺藤森智昭
- ◆氷上西組正覚寺藤長正博

組照善寺杉本正義

◆真照寺仲邑秀明

◆西教寺三輪一了

◆正寿寺棟信了

◆誠照寺末永常信

◆安楽寺山内義憲

◆円福寺松本広長

◆神戸中組正念寺増岡康信

◆神戸漆組尊光寺前川隆司

◆光明寺田中法胤

◆顕證寺藤正隆

◆神戸西組長善寺平松周章

◆光瑞寺高坂省爾

◆本誓寺藤猪英生

◆順照寺善本秀樹

◆徳善寺岡崎満利雄

◆北摂組明樂寺朝倉智亮

◆正覚寺光森宣明

◆正光寺高崎長英

◆宝泉寺平原充信

◆神明組光明寺松本重信

◆金覚寺大岡周賢

◆勝明寺小山貫修

◆西明寺赤松尚之

◆善福寺藤本唯成

◆淡路組円徳寺巖見照

◆萬行寺山本宣昭

◆山本龍雄

◆播磨東組妙覚寺森田智

◆播磨中組光福寺藤野昌俊

◆加古川組南宗寺月崎昭見

◆神崎組教徳寺山本達誓

◆姫路南組常念寺藤井弘範

◆姫路中組正龍寺関裕

◆綱干組政源寺赤松義光

◆揖電東組西樂寺桑門利行

◆揖電西組専龍寺辻清昭

◆佐用組常徳寺杵築俊昭

◆多紀組光専寺浅井幸憲

◆氷上東組照蓮寺藤森智昭

◆氷上西組正覚寺藤長正博

『兵庫の子どもバスで本山へ』

4月2日に全国大会

小宅匡

◆神戸西組順正寺山下清之

◆会役者

◆神戸西組順正寺山下清之

◆宝珠寺鷲尾衛鳳(別院非常勤参勤)

来年四月二日に本山の御影堂と新境内地を会場に四百年法要を勝縁として、全国からほとけの子どもが集い、私たちの本願寺という意識の高揚と友垣の輪をひろめるために「ほとけの子ども」全国大会が開催されます。

この大会には全国から三千五百人の参加募集があり、兵庫教区からも二百人の参加を募集します。

本山への参加方法としては、貸切りバスで一泊二日の研修旅行として参加する方法と直接本山に集合する方法とがあります。

バス旅行では前日、宇治平等院や甲賀の忍者村などを見学し、本山前の旅館に宿泊します。

詳細については兵庫教務所内少年事務局までお問い合わせ下さい。なお、募集人数が集まり次第締め切らせて頂きますのでご了承下さい。

講師は梯実圓師、講題は念仏者の生死観、参加費は一人五百円、募集人員は三百人(別院本堂定員)、申し込みは一月末までに各組の社会福祉推進協議会評議員並びに寺婦連盟・仏婦連盟委員まで。

また、本年度もビハラー活動に積極的に関わっていただく実践者の養成を目的とした「ビハラー実践活動研究会第五期生」を兵庫教区においても四名の定員で募集しております。

詳細は教務所ビハラー研修係まで。

ビハラー研修会

来月二月十三日、水曜日午後一時より神戸別院において第三回ビハラー研修会を開催致します。

講師は梯実圓師、講題は念仏者の生死観、参加費は一人五百円、募集人員は三百人(別院本堂定員)、申し込みは一月末までに各組の社会福祉推進協議会評議員並びに寺婦連盟・仏婦連盟委員まで。

また、本年度もビハラー活動に積極的に関わっていただく実践者の養成を目的とした「ビハラー実践活動研究会第五期生」を兵庫教区においても四名の定員で募集しております。